



学童のことも考えて、地域行事を考えた上、農業体験、調理や福祉の仕事の学生の手伝いをしている。「定年退職後の生活が充実する」というのが、教員や大学生が宿題を教える大きな理由。「そうして、地域と日常的に関わり合う場ができれば、子どもたちには地域と繋がりが、地域に育てられ、多少の悪さや逆に地域を元気づけていくキッカケになる。そんな学童がスタンダードになる。」

イ・イン金沢スカイでの贈呈式に参加されました。

あとがき

編集に関わり2030年に向け、今やるべきことが明確になった。「健康」にも「遊び」にも取り组みたい。

法人本部

妙林柿 79号

社会福祉法人 佛子園
石川県白山市北安田町548番地2

TEL 076-2275106
MAIL headoffice@bussien.co.jp
HP http://www.bussien.co.jp

発行人 雄谷良成
発行日 令和元年6月18日



家が密集した町内にあるため、温泉の掘削や建築工事中には地域の方々から厳しいご意見をいただくこともありました。しかしながら、「ここができて、輪島に新しい風が吹いた」「ここができて、二二二」のように場所があつて、ひとり身の私にはとても助かるようなと嬉しいお言葉をかけていただけるようになりました。今はやがていただけるような二二二に匹敵するお客様も有名な前で呼ぶことができそうです。二二二とどこと誘っていただくことも増えてきます。

今年のゴールデンウィークには「地域とともに二二二を」と題したイベントを実施します。この一年を地域のバトと振り返りながら二二二周年祭はどんなことを

しょう、この
と気の早い話
をご近所の方
たちがいて、
たがに胸に残
ります。

令和元年は、
輪島の旧老舗
居酒屋「うめ
や」の建物を
取り壊すこと
になりました。

その土地は、
地図が標示し
てあり、また
その土地にお
すする飲食店
は「OK」が記
されているの
で、お店の情
報を得るのも
でき、しかも
もともと写真
も動かして情
報発信してく
ることができます。

そのうち、一
軒分、二軒分
の場所では、
館内の清掃
や受付業務、
飲食店の調理
やホールスタ
ッフ、配食の
働きや観光客
案内業務など
と自身のスキル
を合わせた仕
事ができるよ
うな体制を整
えたいと考え

觀
天
望
氣



「再会」

日本が大きな転機を迎えているのは間違いない▼内閣府は3月「ひきこもり」の40〜64歳が全国推計61万3千人いるとの調査結果を発表した。7割以上が男性で、ひきこもり期間の7年以上が半数を占め、15〜39歳の推計54万1千人を上回る。その高齢化、長期化が鮮明になった▼政府は4月、喫緊の人手不足に対応するため特定技能による外国人労働者の受け入れを開始、当初5年で最大約34万5千人の受け入れを行く。昨年6月末でも約26.4万人の在留外国人が存在、日本の全人口の約2%に及ぶ▼政府は6月、認知症施策推進大綱の最終案をまとめ、認知症疾患医療センターを全国に500か所、70代での発症を10年間で1歳遅らせる等とした。団塊の世代が75歳以上になる令和7年に認知症高齢者は700万人に達すると推定▼金融庁は同月、95歳まで生きるとは年金だけでは賄えず、夫婦で2千万円の蓄えが必要だと試算。これに対し政府は「正式な報告書」としては受け取らない」として、報告書は実質的な撤回に追い込まれる異例の展開となった▼矢張り早の施策提言の折、厚生労働省は、市町開が住民の孤立、困窮、介護などといった生活課題に総合的に対応するための方策について検討を始めた。地域のどんな相談にも断らないことを目標とし、社会福祉法人や地域住民が当事者に伴走する支援を強化する。伴走型支援とは、困りごとそのものではなく、サビブスの支え手や受け手という立場を固定せず、誰もが地域づくりに参加することを側面から支えるイメーজ▼時代が「こちやませ」を必要としていることを強く実感するこの頃、法人の担う役割は大きい。

(良)

BUSSIENビジョン2030始動!!

2030年に向けたBUSSIENのアクションプラン2019をご紹介します!

国連が提唱したSDGsをご存じだろうか。Sustainable Development Goalsの略称で、世界各国が2030年までに達成すべき17項目の持続可能な開発目標を示している。

「BUSSIENビジョン2030」はその佛子園版とも言えるべき成長目標。2030年までに達成したい指標を下図の12項目にまとめた。

BUSSIENビジョン2030実施元年にあたる今年度は、「アクションプラン2019」という具体的な行動目標を掲げて取り組んでいくことになる。

今号特集では、12の指標に込められた意味と、アクションプラン2019の内容をご紹介します。



全国に広がる包括連携ネットワーク



2. FC 10PLACES!

赤ちゃんからお年寄りまで様々な人たちが関わりながら運動効果をもたらしているGOTCHA!WELLNESSのメソッドに共鳴する法人さんが全国に広がってきています。今年度はGOTCHA!のフランチャイズ化に取り組めます。目標は10か所!

3. 関係人口5%UP!

ごちゃまぜを推進している佛子園。年齢や健康状態、障害の有無にかかわらず人と人が関わることで役割や自信、健康、幸福がもたらされていることは、経験値として実感しているところです。ということで、今年度は佛子園内の各拠点の関係人口を調べ、昨年対比5%UPを目指していきます。

4. B's CLUB

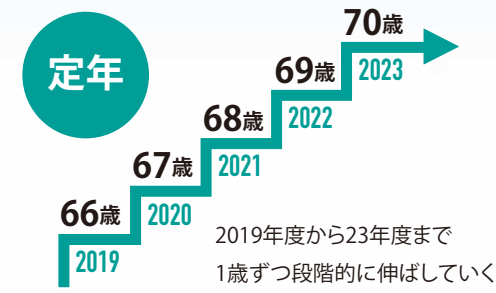
あそびこそ佛子園の真骨頂。かつて星が岡牧場で利用者さんたちと作っていた“自”ビールがその後、日本海倶楽部のクラフトビールになりました。真剣に仕事して真剣にあそぶ。そこからクリエイティビティが生まれるのだと思います。今年から有給休暇が義務化されますが、これから有給を活用しどう自分たちの休みをエンジョイしていくか、「私の“有休”自慢」を今年一年行いながら、仕事へフィードバックしていきたいと思っています。

Work&Play



5. Retirement age 66!

佛子園では4年前から定年を65歳に引き上げましたが、今年度から定年をさらに一年ずつ引き上げていくことにしました。人生100年時代を迎えるにあたって、定年年齢のことだけでなく、私たちの働き方を様々な観点からの先も見直していく予定です。



1. Table Manners!

“歩いているだけで佛子園の人だと分かる”くらいに自らを高めていくのが「BUSSIENの品格」。今年度はテーブルマナーに取り組みます。一年かけて、テーブルマナー講習を全職員対象に日本海倶楽部のレストランで開催し、ナイフフォークの使い方を始め、パーティから日常にまで活かせるテーブルマナーを学びます。「食べ方を見るとその組織が見える」という言葉があるように、食事をすることは他者への配慮も必要です。そういう意味では食事シーンでのマインドも大事にしています。



6. VR

私たちはこれまで様々な障害や疾患のことを勉強してきました。例えば、自閉症の方は視覚優位だということは良く分かっていますが、分かっていることと彼らがどういう見え方をしているか理解しているかは別です。そこで、今年度は(株)シルバーウッド代表取締役の下河原さんが開発したVR(バーチャルリアリティ)の機材をお借りし認知症の方が日常生活をどのように見、感じているのかを体験していきたいと思っています。



7. Trial Jr. Pick up 5!

「人を育てられる人を育てる」というのは、誰かが後進を育てたら終了ということではなく、育てられた職員が次に誰かを育て、その育成の連鎖を大切にしようというものです。2014年度に「施設長トライアル」制度を創設し、現在佛子園には施設長トライアル制度を経た30~40代前半の若い施設長が増えてきています。今年度は「トライアルJr.」という制度を新設。経験や年齢にとらわれず、これからの中核を担う人材育成に取り組み、佛子園の次代をつくっていきます。

Produce Yourself!
Create the Next



12. BHUTAN.FIJI

2010年からブータンと関わってきて今年で10年目となります。日本人が主導で行う国際支援はサステナビリティを伴わないのではないということから、今年はブータン人が代表を務める現地法人の設立を手掛け、情報化社会・消費社会の中で変わりつつある首都ティンブーの人たちのGNH(国民総幸福量)をごちゃまぜで守っていこうと考えています。今年の海外研修先はフィジー。「Work&Play」をキーワードに、現地在住の永崎裕麻さん(「世界で一番非常識な幸福論」の著者)プロデュースの研修を展開していきます。



8. Health Survey!

みんなには健康でいてほしいという単純な思いでつくられたこの指標。今年度は、職員の様々な「私の〇〇健康法」を調査することから始めます。「健康」というと運動を連想させますが、それ以外にも栄養や食、睡眠、癒しの時間、心や体のヒーリングなど多様な健康法が見込まれます。これらの情報を職員間で共有し、自分に取り入れられるものは取り入れて、仕事のパフォーマンスも上げていきたいと思っています。

9. おもしろAI探し

「ドラえもん」はAIなど未来の業務効率化をはかるツールの象徴です。2019年はひとまずAI・人工知能EXPOIに行って、夜は知人の方ぞ知る「変なホテル」に泊まり、次世代につながる画期的なアイデアを探しに行きます!



10. 事業承継

「OCEANS11」などシリーズ化したハリウッド映画には、目的のために様々なプロフェッショナルが集い作戦を立て実行していく仲間たち(OCEANS)が登場します。これからの地域づくりには福祉以外の様々な分野の人たちの関与が不可欠であるとは言までもありません。嬉しいことに佛子園にはごちゃまぜの街づくりに関与してくれているOCEANSが徐々に増えてきています。今年のOCEANSのアクションプランは「事業承継」です。佛子園はこれまでもいろいろな事業を承継してきました。

例えば日本海倶楽部ザ・ファームのえびすかぼちゃ。能登のかぼちゃ農家が少なくなる中で地域の方と連携して能登の野菜を残していく。今では日本海倶楽部ザ・ファームが奥能登で一番の生産高を確保しています。また、むじん蔵は10年前にたたもうとしていた飲食店を就労支援施設として承継した店舗事例です。今年度は、東京半蔵門にある「つけ麺ダイニングIBUKI」を事業承継し、来年4月輪島の移転オープンを目指しています。「おいしいラーメン屋がなかなか無い」と言われる輪島において、IBUKIが地域を元気にしていくのが今年のアクションプランです。



11. ECO BAG

農耕民族であった日本人にとって、自然は常に身近にあるものでした。万物に神が宿るという考え方も日本人にはなじみ深く、最近ではパワースポット巡りも人気です。とはいえ、近年の気候変動や自然災害の前に私たちは無力で、私たちの地球をどのように大切にしていくか、持続可能性という意味でも考えていく必要があります。今年度のアクションプランは、環境を考えていこうということで皆さんが使いたくなるようなお洒落なエコバックを作ることになりました。エコバックは販売予定ですので乞うご期待!